

場を編む

ー地域活動拠点となるスタジアムー

Keywords

地域活動 協調性 多様性

日常 非日常



dz18209 渡辺 佳英

1. はじめに

日本には数多くのスタジアムが存在する。そこでは休日、スポーツの試合や音楽イベントなどが行われ、様々な場所から多くの人が集まる。つまり、スタジアムは多くの人を動かす建築物である。その一方でイベントのない平日にはなかなか使われにくく、大きなシンボルと化している。そこで私はスタジアムの使われ方に疑問を抱き、研究を進めていくことにした。

2. 研究背景

2.1 スポーツ産業

日本のスポーツ産業の年間市場規模は10兆円を超える大きな産業と言える。また、スポーツ庁は5.5兆円(2012年時点)の市場価値を2025年には15.2兆円の市場価値とする目標を掲げている。※(出典:スポーツ未来開拓会議資料)しかし、スポーツ産業のうち、スタジアムなどが分類されるスポーツ施設産業は2012年で約2兆円であり、これはスポーツ産業の成長させるために大きな基盤である。この施設産業の成長がなければスポーツ産業全体での市場価値拡大は難しいといえる。

2.2 スタジアム・アリーナ改革

そこで近年、スポーツ庁は「スタジアム・アリーナ改革」と題して、全国のスポーツ施設のさらなる活用や収益などを目指して、多くの取り組みを各地の自治体と協力して取り組んでいる。この改革の中で、スタジアム・アリーナによって「にぎわいの創出」「スポーツ機会の増加」「地域の社会課題の解決」「地域の持続的成長」に対して取り組むまちづくりを推進している。私はこれらに注目して研究に取り組む。

3. 目的

スタジアムは騒音や観戦者の往来などの問題により近隣住民にとっては迷惑建築となり、観戦に行かない住民にとって利潤は全くないと言える。そこで、イベント開催日以外は地域に開かれ、日々近隣住民がその敷地を利用

することで、住民がくつろぎ、交流することのできる場を生みだすことを目的とする。

4. 対象敷地

4.1 敷地概要

対象敷地は千葉県柏市の柏総合グラウンドとする。

千葉県柏市は都心から電車で約30分の距離であるため、ベッドタウンとして発展してきた。

現在、対象敷地にはスタジアムや体育館、練習場などスポーツ施設の他、洪水時に対応する調整池も設置されている。



図2: 柏市の地域分布

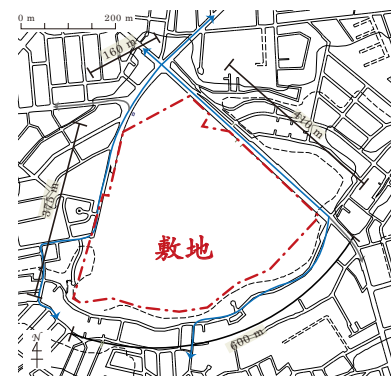


図3: 敷地の大きさ

4.2 敷地分析

昭和50年頃、この敷地内には通り抜け道が存在していたが、第二次世界大戦時に戦闘機部品の製造工場が建設され、道がなくなった。現在も敷地周囲は柵で囲まれており、敷地の通り抜けができないままである。また、工場の労働者確保のため、駅から距離があるが、多くの労働者が住み、住宅地が形成された。

5. 計画概要

敷地面積：14.7ha

建築面積：19,005.87㎡

5.1 プログラム

- ・スタジアム（ラウンジ、会議室）
- ・体育館
- ・広場兼屋外練習場
- ・地域活動センター（、会議場、託児所）
- ・調整池＊
- ・駐車場
- ・駐輪場

5.2 設計趣旨

イベント性が強いスタジアムは一部の限られた人しか利用せず、非日常的な体験ができる空間である。そこで、日常的に活動ができる空間として、公園、コワーキングスペース等の地域活動センターを計画する。また、敷地全体を地域に開かれたものとするため、通り抜けの道をつくる。以上より、日頃から近隣住民が利用できる地域活動拠点の一つにすることを目標とする。

5.3 設計手法

(1) 日常性・非日常性の交差

非日常的な空間であるスタジアム及びその周辺に日常的行動の要素を加え、近隣住民も使いやすい空間とする。生活する上で日常的に行うことをピックアップして、「休息」「移動」「交流」の三つに大きく分類した。

(2) 斜面による日常空間の創出

土手の特徴を利用して、日常的行動を敷地内に取り入れる。読書や睡眠などが快適にできる斜面上の「休息」的空間。斜面を作ることによって、その上をサイクリングや遊歩道として利用する「移動」的空間。土手周辺の木陰や斜面の上の芝生など会話できる「交流」的空間。

以上のように土手の傾斜や解放性を生かして、地域に開き、多様な使い方ができるようにする。

(3) 断面計画

スタジアムは規模の大きさをゆえに敷地外から見た際、スタジアムが大きな壁と感じ、敷地に入りにくい。その壁が日常と非日常の境になっており、一部の人しか利用できなくなっている原因の一つであるといえる。そこで壁面を斜めにして、視線的に圧迫感を減らす。また、まちとスタンドの間に空間を作ることによってスタジアム内外の差を無くすようにする。

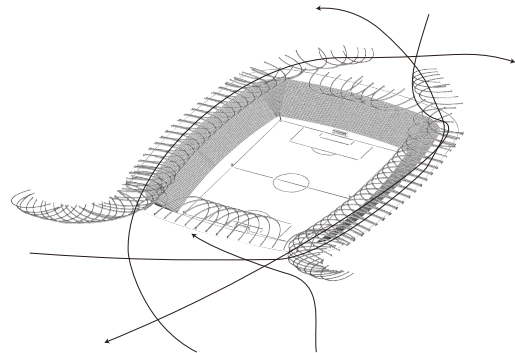


図4：スタジアム内の人の流れ

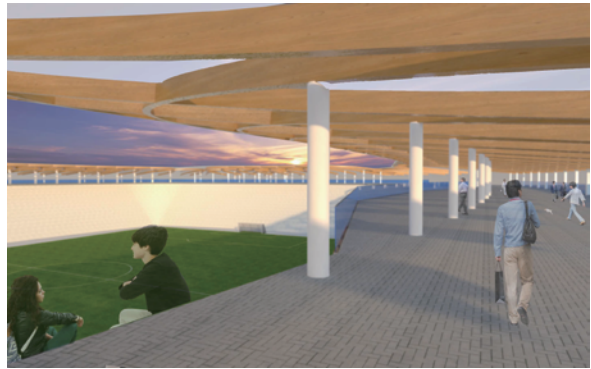
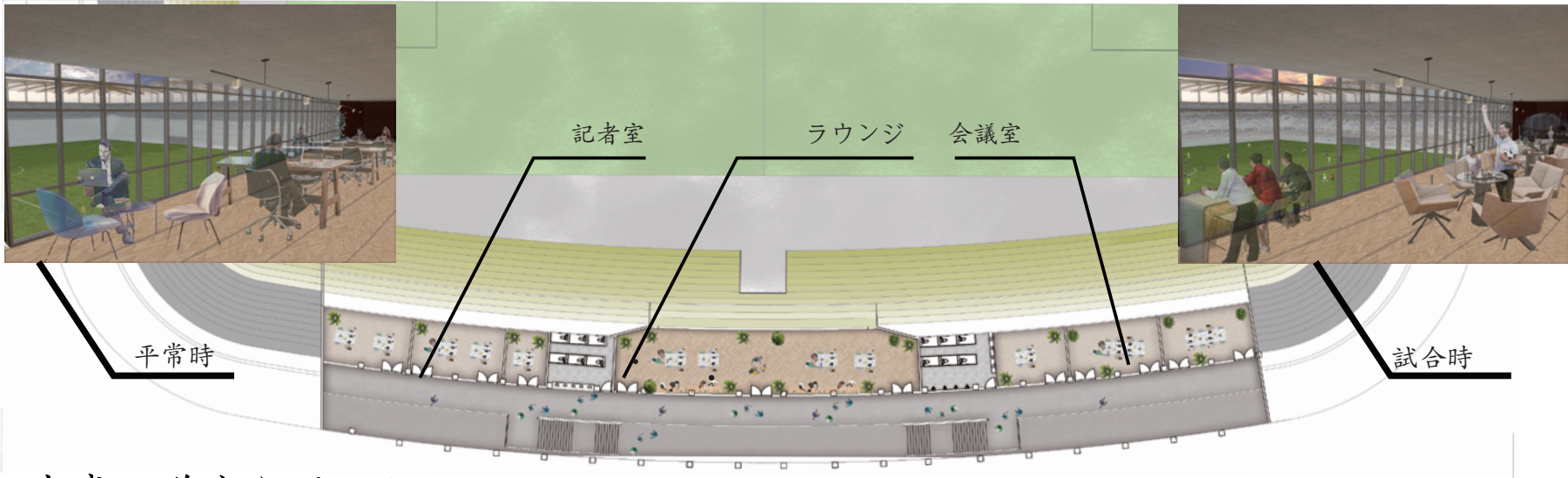
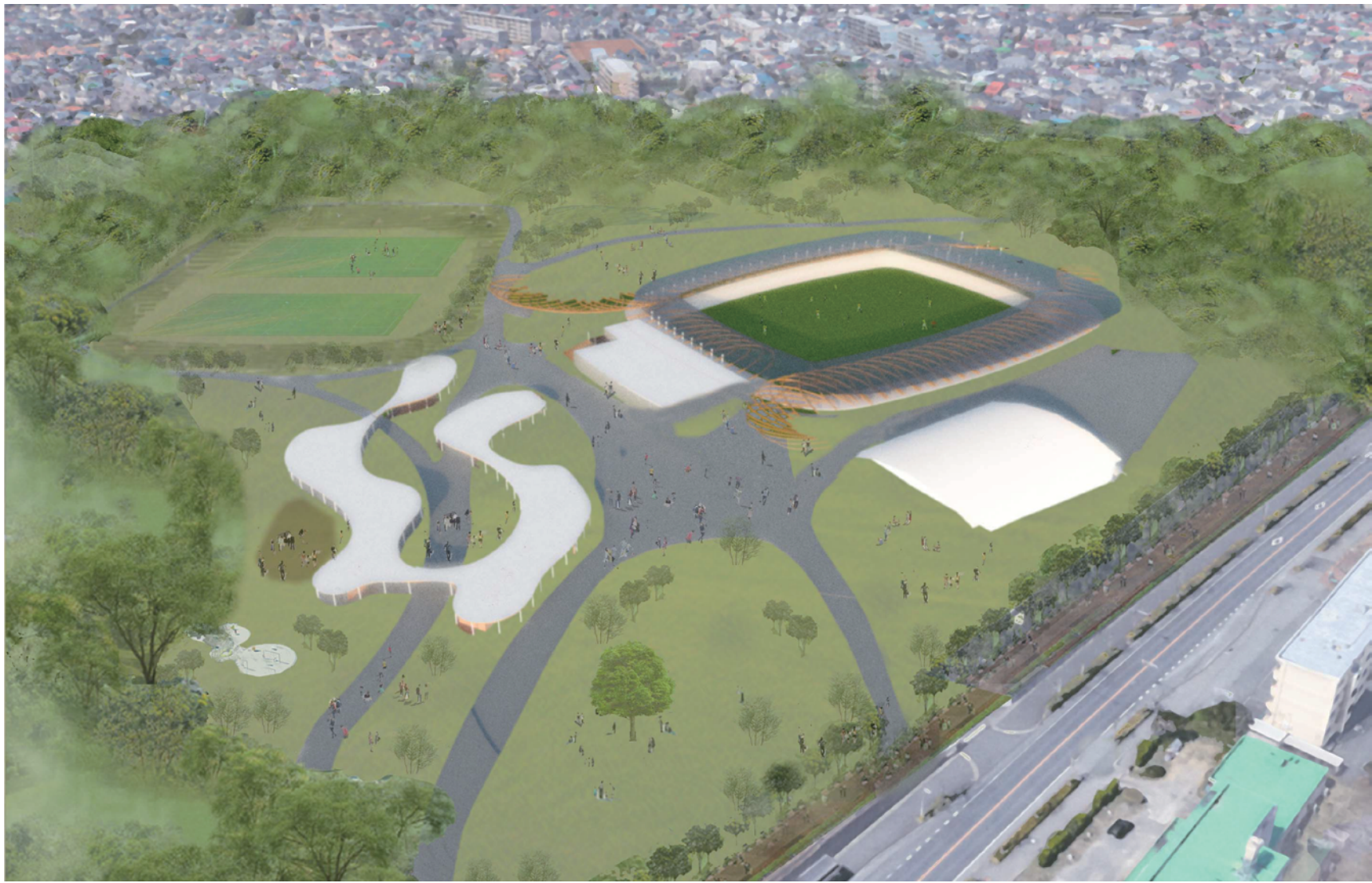
6. 終わりに

今回設計した敷地以外にも日本には大小多くのスタジアムが存在する。規模の大きさに迷惑建築にならず、多くの人が利用できるものにし、その地域を活性化させるために必要不可欠なものに変化させることを期待する。

参考文献

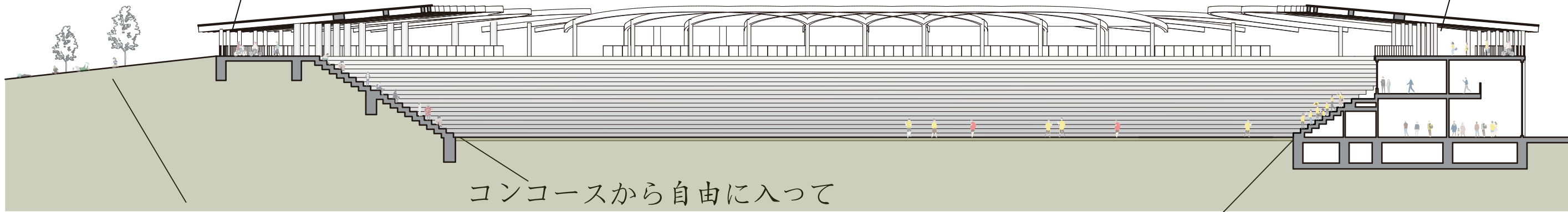
- 1) 数字で見るスポーツビジネスの未来 目指すは15兆円産業
<https://www.projectdesign.jp/201910/sportnewbiz/006919.php>
- 2) スタジアム・アリーナ改革指針
<https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/57746>
- 3) スポーツ産業で重要な3つの分野はこれ！【用品・施設・メディア】
<https://zerosportsbiz.com/2019/09/30/sportindustry2/>
- 4) 歴史アルバム かしわ 一明治から昭和一
発行 柏市役所（昭和59年11月1日）
- 5) 写真アルバム 柏市の昭和
企画・制作 株式会社いき出版（2014年9月29日）

図5：断面計画



地域の道となるコンコース

地域の道となるコンコース



▼ 最高高さ	4200
▼ 3FL	3400
▼ 2FL	3200
▼ GL	

ゆるい斜面の遊び場

コンコースから自由に入って
利用できるスタンド

試合観戦を楽しめるスタンド